NIEしもつけ

ワークシート ④

高校生向け

年　組

設　問

指定の字数で、記事の中から適切な語をそれぞれ補充しましょう。

【1】記事の冒頭（1段目）を中心に、「多職種連携」を説明してみましょう。

（2字　　　）職などと（2字　　　）職とが、（2字　　　）を共有したり、（2字　　　）したりすること。

【2】「社会的処方」を説明してみましょう。

（2字　　　）や（2字　　　）などの社会的要因が患者の（2字　　　）状態に影響を与えることに（2字または5字　　　）が着目し、他分野の（4字　　　）と連携をとって患者の健康維持・改善に役立てていくという仕組み。

【3】社会的処方における「他分野」の「社会資源」の例を記事から抜き出しましょう。

（3字　　　）、（4字または7字　　　）、（4字　　　）

【4】医師が、他分野の社会資源と情報を共有することに、どのようなメリットが期待されていますか。次のそれぞれの立場について記事からまとめましょう。

〈他分野の社会資源側のメリット〉
要介護者の（2字　　　）を踏まえた上で、（6字　　　）ことができること。

〈医師側のメリット〉
患者の健康を維持・改善するための（2字　　　）的な処方ができること。

【発展学習】

1．「健康格差」について調べてみましょう。

2．記事を読んだ感想や意見を下野新聞「読者登壇」に投稿しましょう。

なぜ君は病に…

社会的処方　医師たちの挑戦

地域との相乗効果探る

厳しい指摘だった。「正直申し上げて、わたしたちにとって最も連携が取りづらいのは医師だと思います」

2019年9月26日、宇都宮市内で開かれた「社会的処方」をテーマにした多職種連携の研修会は、介護職や医療職など約80人が参加した。その会場で1人のケアマネジャーが講師の医師にこう指摘を寄せた。

講師を務めていたのは医師の[illegible]さん（64）。宇都宮市医師会「在宅医療・社会支援部」のメンバーの一人だ。

「医師会が社会的処方をやろうということですが、上から目線でやれということではありません。皆さんの中に、交ぜてください、ということです」。[illegible]さんは穏やかな口調で参加者に理解を求めた。

連　携

貧困や孤立など患者が抱える「健康の社会的決定要因（SDH）」に医療従事者が着目し、社会資源につなぐのが社会的処方の仕組みだ。医療と他分野の連携がなければ成り立たない。

しかし、簡単ではない。在宅医療や介護などの現場で連携の必要性が強く指摘されてきた医療と介護でさえ、隔たりがある。

「病気と生活は関係ないと言う医師はまだまだいる。その中でケアマネやヘルパーなどとつながろうとする医師は少ない」。別のケアマネジャーはこう切り出した。

「何でケアマネが来たんだ」。昨夏、新たに担当した80代の女性と病院を訪ねると、医師は[illegible]と言ったという。

「女性の生活を支えるために病状を知っておきたかっただけ。医師に話を聞ける雰囲気ではなかった」

社会的処方をテーマにした多職種による懇談会。グループ討議をする参加者＝2019年12月3日夜、宇都宮市若草1丁目、とちぎ福祉プラザ

一方で、医師との連携が必要となる社会的処方という取り組みに、期待の声もある。

ケアマネジャーの[illegible]さん（58）は、多職種が集い情報交換や医療・介護などについて議論を深める勉強会の事務局に携わる。社会的処方をテーマにした勉強会に参加し「医師の言うことは聞くという患者は多い。医師がヘルパーや訪問看護師たちと情報を共有すれば、効果の高い処方ができる」とみる。

「医療が在宅に降りてきたということでしょう」。

その[illegible]は、県内180の法人が加盟する「県社会福祉法人による『地域における公益的な取組』推進協議会」の会長[illegible]さん（60）だ。医療従事者が病院内に限らず地域へ目を向け始めたことに手応えを感じている。

社会支援との連携を見据え、相談事業をはじめ加盟法人の子ども食堂や居場所づくりなどの情報を提供することを検討するという。社会支援に協力を求め、講演会も計画中だ。

社会支援部の医師[illegible]さん（59）は、市医師会の取り組みが「社会支援部のスタンドプレー」と映り、周囲と協働できなくなることを懸念する。

社会的処方は、専門職の連携だけでなく市民の理解も欠かせない。医師たちはそのために奔走する。[illegible]

（第2部終わり。この連載は健康と社会的処方取材班が担当しました）

（2020年1月9日付・下野新聞3面）

相乗効果＝複数の要素の結果を足し合わせる以上の高い結果が出ること。

処方＝医師が患者の病状に応じて、薬の調合と服用法を指示すること。

介護職＝介護を必要とする高齢者などに対して、必要な生活支援サービスを行う職業のこと。

医療職＝医師、薬剤師、看護師、助産師、保健師、理学療法士、作業療法士など。

健康の社会的決定要因＝生活環境や労働環境など、社会の中でその人の置かれた状況のうち、健康の維持・改善に影響を与えるもの。

ケアマネジャー（ケアマネ）＝要介護者等からの相談に応じ、要介護者等がその心身の状況等に応じ適切なサービスを利用できるよう市区町村、サービス事業者等との連絡調整等を行う専門職。正式名称は介護支援専門員。

ヘルパー（ホームヘルパー）＝在宅の高齢者や障害者宅を訪問して介護サービスや家事援助サービスなどを提供する専門職。

子ども食堂＝1人で食事したり、家庭の事情で食べられなかったりする子ども向けに地域住民や自治体が主体となって無料や安価で食事を提供する食堂。近年は子どもだけでなく保護者や近くの住民が集まって交流する地域の食堂にもなっている。

専門職＝高度な専門知識や技術が求められる特定の職種のこと。公認会計士、医師、弁護士、一級建築士、税理士、その他。

協働＝同じ目的のために、力をあわせて働くこと。

スタンドプレー＝目立つためのわざとらしい行為。

出題・監修は県高校教育研究会国語部会・山口哲男宇都宮白楊高主幹教諭